

■ は寺社



①三好池

干ばつに苦労していた三好町では、愛知用水公団により、2億8千万円をかけた難工事の末、昭和34年（1959）、三好池が誕生した。木曾川の兼山ダムから取水した用水は、三好町の水田や畑作地帯を灌漑する、正に夢の水となっている。



三好池堤防と取水塔



天王神社本殿

②天王神社

主祭神	すどのおのみこと 素戔鳴尊
御祭神	うかのみたまのみこと 倉稻魂命 あめのまひとつめのみこと 天目一箇命
御神徳	疫病除け 水難除け 厄災除け

文禄4年（1595）「牛頭天王」として勸請。明治時代の神仏分離、三好八幡社への合祀、分祀を経て、大正14年（1925）名古屋市南区豊田町の稲荷社を合祀。かつて「狛犬を献上したら疫病が流行した」ので縁起が悪いとされ、境内に狛犬がない。

③新屋の山車

新屋の山車は安政2年（1855）の作で、約150年の歴史を積んで、天王神社の祭礼に奉納されてきた。平成16年（2004）10月6日、山車蔵の火災により市の有形民俗文化財であった山車が焼失した。

区民からの願いにより山車再建委員会が設立され、幾たびかの協議の結果、現在の山車が平成26年（2014）に再建された。



提灯を灯した山車

④八龍神社

御祭神 とよたまひめのみこと
豊玉毘売命

御神徳 水、海、安産、子孫繁栄をつかさどる。

慶長11年（1606）、雨乞いの神として勸請。江戸時代中期には、領民に「八龍大明神」として奉斎され、大岡越前守に代参を差し向けられた。干ばつ時には、神前で火を焚き樽太鼓を叩き、三日三晩祈った。社殿は、雨雲を迎えるよう西向きに造営されている。



八龍神社本殿

⑤ 笠松神社

御祭神 摩利支天

以前は、あめのみそめの神を祀ったと言われ、コンクリート造り、極彩色の社殿も神仏混合の様態を示していた。

昭和61年（1986）3月、コンクリート造りの社殿が破損したため再建した。境川にも近く、昔出水の時、社殿が下流まで流されたと言われている。



田に囲まれた笠松神社

⑥ 昔の境川



東郷町との境は水路となっている

昔の境川は笠松神社から北に30mほどのところを流れていたと思われる。昭和30年代まで手を加えることのなかった笠松の森の北に一段低い川田に見ることができたが、土地改良の施行により神社の周囲は田地となり、現在の東郷町との境界は細い溝を残すのみとなった。その溝が尾張・三河の国境であった。



中央の線が尾張・三河の国境、円内が笠松神社

⑦御嶽神社

木曾御嶽山に対する信仰（御嶽信仰）の、新屋における神社である。天王小学校の西隣にある御嶽神社では、毎月18日、新屋の先達が主となってお参りをする。春と秋に例大祭があり、他の地域からのお参りも多い。



天王小学校の西隣にある御嶽神社

⑧全海寺



全海寺本堂

新屋の寺院は全海寺のみで、寛永元年（1624）の創建。浄土宗西山深草派、本尊は阿弥陀如来座像。檀信徒数は約180戸で、17名の総代により寺院運営がなされる。

年間の法要は、1月の初庚申から大晦日の除夜法会まで、10回執り行われる。

⑨新屋辻の辻地藏

地藏菩薩は、この世とあの世の境で靈魂の浄化をしたり、村境で通行人の道祖神であったり、亡くなった子どもを救ったりすると信じられた。新屋辻の辻地藏は、知立道と伊保道の交差点にあり「右 もろわ 名古屋」「左 三好 知立」と刻まれている。



新屋辻の辻地藏

■は寺社



①医王寺



医王寺本堂

三州鳳来寺近辺の三吉の僧、行観自達坊が寛和2年(986)この地に至り庵を結ぶ。三吉村の村名をなす。正暦4年(993)真言宗の沢雲仁清阿闍梨が薬師堂を創建。瑠璃光山医王寺と称し開山する。

②白山権現

医王寺が白山権現を鎮守として勧請したもので、西宮白山権現とする。現在も一部の人に守られている。かつてはこの辺りはうっそうとした森であったという。



西宮 白山権現

ぜんきゅうづか
③善久塚

文和4年(1355)医王寺住職善久法印が西の原に入定し、この善久を供養する塚である。土地改良事業により現在の地に移築された。



移築後の善久塚

④市場通り

最初の学校(三好学校)と村役場の地は現在の医王寺の南側にあった。ここは「西の木戸」と呼ばれ、三好村の西の出入り口を意味している。昭和の時代までは、西の木戸から満福寺に至る通りは「市場通り」と呼ばれ、魚屋、豆腐屋、履物屋、鍛冶屋、酒屋、雑貨屋、桶屋、薬屋、菓子屋、自転車屋、肉屋等が並ぶ商店街であって、三好町内外の買い物客で賑わっていた。

平成11年(1999)にまとめられた「21世紀へ翔ぶ-ふるさと三好」(三好町調査報告書)に三好上地区近辺に点在した商い屋という図が掲載されている。

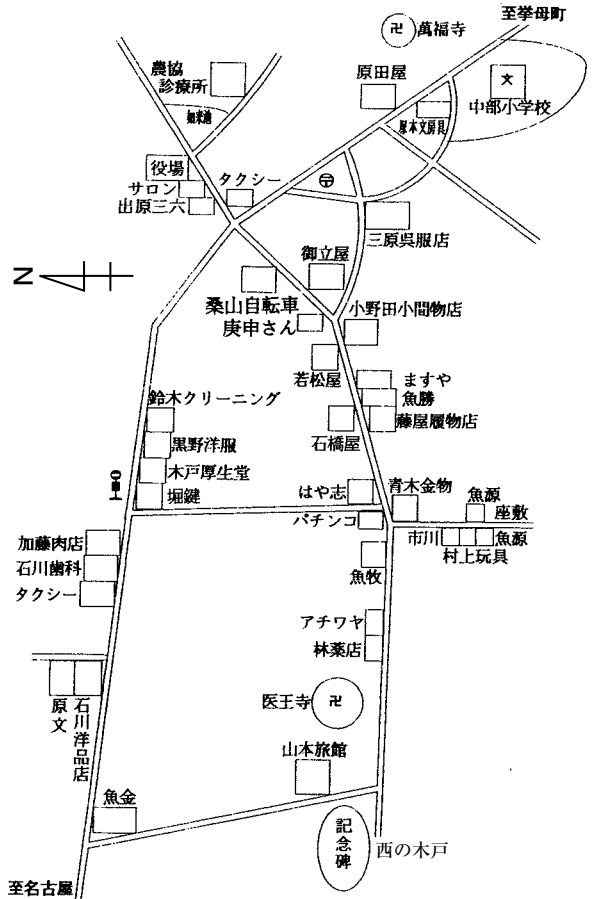


図 昭和30年代の三好上の商い屋 (小林章浩氏作成)

⑤ 満福寺



満福寺本堂

満福寺の前身は天元5年(982)に開創された大乘寺とされる。

その阿弥陀堂の朽損はなはだしき中に、享祿4年(1531)浄土宗西山深草派石塔山満福寺として再興、浄土宗念仏研修の道場とした。

⑥ 三好稲荷閣

三好稲荷閣は享保17年(1732)地元の庄屋久野太郎右衛門が、近郊で祀られている稲荷の祠3カ所を合祀し、陣取山に「三好稲荷閣」として遷した。文久元年(1861)に西大平藩大岡越前守の要請により、満福寺境内に遷座し西三



三好稲荷閣

河から尾張、美濃にかけて広く信仰を受ける。三好稲荷閣の大提灯は平成29年(2017)に世界一の認定を受けた。

⑦おくに大明神



おくに大明神の碑

口碑伝承によると、江戸時代年貢減免のため、満福寺の北にある溜池(如来池)下に住むおくにばあさんの息子を公儀への直訴に向かわせた。直訴は大罪、一身を投げ出す覚悟を要し、「おくにばあさんのことは村で十分面倒を見る」と約束して送り出したが、年貢減免は叶えられず息子も帰らなかった。残されたおくにばあさんは病死、一人娘にも村人は同情を寄せず、娘は恨みながら如来池に身を投げた。その後、村に不幸が続き「おくに大明神」はおくにばあさんの供養のため、如来池の下に田を有する人により建てられた。碑は市役所敷地の南西角にある。

⑧ かくがのあと 鶴駕之迹

明治43年(1910)秋に皇太子^{よしひと}嘉仁親王(大正天皇)が、三好村大字三好字大慈山にて行われた陸軍師団対抗演習を統覧されたことを記念し大慈山に、鶴駕(皇太子の乗物)之迹の碑が建てられた。土地改良工事のため、皇太子が御泊所とされた三好第一尋常小学校(中部小学校)に平成年間に移転された。この皇太子御泊所を記念して三好第一尋常小学校の校章には鶴が使用され、現在の中部小学校の校章として引継がれている。



鶴駕之迹記念碑と学校創立120周年碑